

令和3年9月24日

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）との定期情報交換会（web開催）
の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）との定期情報交換会をweb会議形式にて開催しました。本会議は、両国の牛肉の需給状況等について意見交換を行う場として定期的で開催しており、今回で27回目となります。

- 1 日時：令和3年9月14日(火) 14時00分～16時30分
- 2 出席者：MLA ジェイソン・ストロング（代表取締役社長）
スコット・ウォーカー（日本駐在事務所代表）ほか
ALIC 佐藤一雄（理事長）、渡辺裕一郎（総括理事）、藤原直（理事）ほか
- 3 概要：ストロング社長と佐藤理事長からの挨拶後、双方からそれぞれの牛肉需給をめぐる情勢等について説明のうえ、意見交換を行った。

《MLAからの説明概要》

- ・ 2021年上期は降雨に恵まれ、下期もこの状況は継続する見込み。また、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種拡大等を背景に、今後、各国のGDPの回復が見込まれ、豪ドルの対米ドル為替レートも本年1月をピークに安値傾向にあるなど、海外市場における豪州産牛肉の競争力が高まる環境にある。
- ・ 近年は干ばつにより飼養頭数が減少していたが、現在は安定的な気候を背景に牛群再構築が進み、2023年においては、牛飼養頭数が2010年以降で4番目の水準となる2,804万頭（2021年比8%増）に増加し、牛肉生産量についても、穀物肥育牛の増頭（注：直近では肥育牛全体の47%）や遺伝的改良の進展による枝肉重量の増加などを背景に、2018年の水準を上回る232万トン（同18%増）まで回復するものと見込む。こうした結果、2023年の牛肉輸出量は枝肉換算で173万トン（同26%増）と見込んでいる。
- ・ 牛肉輸出について、従来から最大の輸出先である日本は、外的要因を受けにくい安定的な市場であり、今後も販売促進等を通じて長期的な成長機会の最大化を図っていく。また、中国は、国内生産を上回る急速な需要の増加から、巨大市場となっているが、近年は輸入先が多様化し、豪州産のシェアも一時的に低下しているため、今後とも障壁の除去や他国産との差別化など必要な対応をとっていく。
- ・ 豪州産牛肉は世界的に品質や風味、使い勝手のよさなどから高い信頼と支持を得ているが、リスクと機会のバランスを取るために今後も輸出市場の多角化を推し進める。

【お問い合わせ先】

調査情報部 山崎・阿南

電話 03-3583-8105